

# ケロちゃん通信

2021年 11月 第77号



☆ 秋も深まり、里の紅葉もはじまってきました。急に寒い日も増え、体調を崩しやすい時期です。喘息の発作が悪化する方も多ようです、お体にはお気をつけください。

☆ 10月よりインフルエンザワクチン接種がはじまり、小児科が一番忙しい季節になってきました。今年は昨年度の8割弱程度しか供給がなく、ご迷惑をおかけしています。受給バランスをみて余裕があるようでしたら再度予約を受け付けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

☆ コロナワクチンも予約受付中です。11月以降はまだ空きがありますのでご希望の方はご予約お願いします。今後3回目の接種や12歳未満への接種が始まるのであればそれにも対応していきたいと思っています。

☆ 7月に猛暑で、玄関前の夏椿が枯れはじめ、回復をまったのですが、難しいようなので、えごの木とカエデに植え替えることにしました。カエデの語源は諸説あるようですが、葉の形がカエルの手に似ていることから、カエデになったという説もあるようです。来年はきれいに紅葉するといいなと期待しています。そろそろ来年のチューリップの準備もする時期になりました。



11月の診療予定: 本間医師 5日午前・午後、12日午前



## ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1 電話番号0258-36-5810  
http://www.nagaoka-iryousaikyou.jp/

### 診療案内

・感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る一般外来と慢性疾患（感染性のない疾患や定期処方など）を診る慢性外来の診療時間を分けています。

時間	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来 (急性疾患)					
11:00		予防接種 (1歳以上)				10:30~ 11:30
12:00		慢性外来				11:30~ 12:30 インフル専用
13:45	予防接種 健診 (1歳未満)					
15:00	予防接種 (1歳以上)					
16:00	一般外来 (急性疾患)	15:30- 16:30				
17:30		16:30- 17:30 インフル専用				

- ・平日午前11:00-12:00、午後13:45-16:00、土曜日午前10:30-12:30は、一般診療はできませんので、ご協力をお願いいたします。
- ・11:30, 11:45, 15:30, 15:45に別途インフルエンザワクチン専用枠があります。
- ・スマイリーでは、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約ください。
- ・もちろん、急を要するような場合には、すぐにご連絡ください。詳しくはホームページのお知らせをご覧ください。

## あたふくかせ（流行性耳下腺炎）

- ・ムンプスウイルスによって、飛沫感染（咳や痰で飛ばされるウイルスによる）および接触感染で感染します。
- ・潜伏期間は2-3週間で、3-6歳が好発年齢です。
- ・ワクチンが公費負担でないわが国では、まだ流行も多く、ワクチン2回接種による予防が大切です。一度感染すると終生免疫がえられるといわれてきましたが、再感染例もまれに認められます。

### < 症状 >

- ・耳の下（耳下腺）、あごの下（顎下腺）が腫れて痛くなります。発熱を伴うことが多いです。約半数はあごの下（顎下腺）の腫脹もみられ、顎下腺だけの場合もみられます。
- ・腫れは片側からはじまり2-3日目に反対側も腫脹し、70-80%は両側の腫脹がみられます。たいてい両側とも腫れますが、片側だけのこともあります。3日くらいでピークとなり1週間ほどでひきます。
- ・耳下腺の痛みは、食物摂取時や酸っぱいものを食べたときに悪化するのが特徴です。
- ・乳幼児やワクチン接種者では、耳下腺腫脹がほとんどなく、軽度の発熱のみで終わる場合もあります。症状の出ない不顕性感染も20-30%あるといわれています。流行防止の観点から見逃さないように注意が必要です。
- ・感染源となるのは腫脹1-2日前より腫脹後5日目までといわれています。

### < 診断 >

- ・症状および流行状況で診断されます。迅速検査はありません。
- ・他の耳下腺が腫れる疾患との鑑別としては、他のウイルス性耳下腺炎（パラインフルエンザ、インフルエンザ、コクサッキー、エコーウイルス等）、反復性耳下腺炎、化膿性耳下腺炎などがあります。

### < 治療 >

- ・ムンプスウイルスに対する抗ウイルス薬はありません。
- ・安静、水分・栄養摂取、十分な睡眠が基本です。酸っぱいものや、よく噛まなくてはいけない食べ物は避けましょう。

- ・熱が高い時、痛みが強いときは解熱剤、鎮痛剤の処方を行います。疼痛部の冷湿布もよいでしょう。
- ・頭痛や腹痛が強く何度も吐くとき、腫脹が長引くとき、腫脹が赤くなったとき、高熱が続くとき、睾丸を痛がる時、耳の聞こえが悪そうとき、などは下記合併症の可能性があるので、すぐに受診してください。

### < 合併症 >

- ・髄膜炎：発熱、嘔吐、頭痛などの症状を伴う場合には疑われます。特異的な治療法はありませんが、輸液、入院等が必要になる場合もあります。軽症例を含めると1-10%にみられるといわれています。
- ・睪炎：発熱、上腹部痛、嘔吐がある場合には精査が必要です。軽症例も含めると数%といわれています。
- ・睾丸炎、副睾丸炎、卵巣炎：思春期以降の感染で見られることが多い合併症です。陰嚢内の痛み、下腹部痛がありますが、不妊症の原因になることは稀だといわれています。
- ・難聴：耳下腺炎発症数日前から1週間くらいで発症する不可逆的な高度難聴です。通常片側性です。頻度は1000人に1人という報告もあります。小児で片側性の場合、気づかない場合も多く、あたふく罹患後は指こすりなどで聴力の確認が必要です。特別な治療法はありませんが、ワクチンで予防できる難聴ですので、ワクチン接種が推奨されます。

### < 予防 >

- ・予防接種を受けましょう。
- ・うがい、手洗いをしウイルスの持ち込みを防ぎましょう。
- ・マスクを着用し、咳やくしゃみを直接浴びないようにしましょう。

### < 登園、登校禁止期間 >

- ・「耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が出現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで」は登園・登校は禁止です。片側が腫れ、しばらくして反対側が腫れた場合には、反対側が腫れた日から数え直しますので、ご注意ください。